

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

※利用実績なし※

○事業所名	チャイルドハート小倉アイリス		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1			
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

## 放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハート小倉イリス		
○保護者評価実施期間	令和6年 1月 1日		～ 令和6年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和6年 1月 1日		～ 令和6年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	イベント内容、外出先、昼食などを子どもを交えて話し合いで決めている。	スタッフ主体で意見を聞いたり、話し合いを進めている。 昼食の話し合いでは予算を決めて予算内で買える物や、メニューを決めている。	今はスタッフ主体で話し合いを進めているがスタッフが見守って、子ども同士で話し合いを進められるようにする。
2	外出やイベントを多く設定し、子どもたちの体験の場を増やしている。	外出先に行く際には、交通手段として公共交通機関を使っていく事もある。	人が多く集まるイベントや行事に参加していきたい。
3	言葉遣いや礼儀作法を最優先して子どもたちに伝えている。	見本となる作法や言葉遣いをその場で示している。 納得できるように説明も加える。	自然と所作が身につくように繰り返し行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流がなかなかできていない。	地域活動の拠点の把握が出来ていない。	情報収集に務め、現在行っている大きなイベント参加を基に、交流の機会や参加を増やす。
2	保護者会などの開催がない。	家族会の開催を希望されない保護者様が多い。	直接顔を合わせなくても、保護者様同士の思いを表出できるような方法を考える。
3	常勤以外のスタッフに大学生が多いため、勤務する期間が限られる。	希望する勤務時間の多くが、午後からになるため(学校終業後)時間の都合がつかない方が多い。	様々な媒体を使用して、スタッフ確保を図る。



	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			
	28	(28～30は、センターのみ回答)			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答)			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。				
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			

説明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。				
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。				
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。					

## 公表 放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハート小倉アイリス				公表日	令和7年 2月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		学習室を設け、遊ぶ児童と学習をする児童を分けてスペースが狭くならないようにしている。 机の配置、学習室等の有効活用。	パーティションなどを利用し、学習室内で個別に学習ができるようにする。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		利用定員、子どもの状態を考慮してスタッフの配置を行っている。	スタッフの配置を4~5人体制にしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		スタッフ間での声掛けを密にいき行い、安全に利用できるようにしている。 トイレの入り口が狭い為、子どもがトイレに行く際はスタッフをトイレの見える位置に配置している。	可視化して分かりやすい環境を整える。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日の業務の中に掃除を取り入れている。 遊具の消毒なども徹底して行っている。	誰が行っても同じ綺麗さになるように指導する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		学習室を利用し、遊ぶ児童と学習する児童を分けている。	利用人数が多い日は配慮が必要。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	2	振り返りに関しては十分に議論され、改善に向かうように話し合っている。	スタッフ全員が参画できるようにする。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		全スタッフに周知を行い、いつでも意見を発表できる環境を整えている	業務改善につながるような話し合いを多く設定し、日々の業務改善につなげる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	気付いたことや、気になったことを言えるような環境作りを心掛けている。	不定期な出勤となるスタッフが、意見を言う機会を設けていく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	児発管からの情報発信を密に行う。 フランチャイズ本部による定期的な評価が行われている。	全スタッフに評価体制の仕組みを説明する。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		スタッフに負担をかけないように複数回に分けて研修を行っている。 外部研修、本部研修、内部研修の機会を積極的に取り入れて参加している。	今後も全スタッフを対象に、計画に沿った研修を続けていく体制を継続する。		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		スタッフ間で情報を共有し、話し合っ支援プログラムを作成している。 スタッフ全員に支援プログラムを周知している。	事業所内に支援プログラムのファイルを置き、スタッフがいつでも確認できるようにする。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		情報発信を密に行い、全スタッフが情報共有できるように意識している。	今後も細やかな話し合いを続ける。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	情報共有を常に行っている。 子どもの支援の事で会議を重ね、支援方法を決めている。	全スタッフに支援内容や方法を伝える。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	職員同士で情報を共有して計画を作成している。	全スタッフを対象とした情報共有を、徹底して行う。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		情報発信と知識を得る工夫を行う。	社内研修を行い、詳細な内容を全スタッフに伝達していく。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		日々の支援の中でスタッフと意見交換行い、自発管がまとめ話し合いを行っている。	「地域支援・地域連携」を重点的に計画する必要がある。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	利用者が楽しめるようなプログラムを立案している。	スタッフ全員が、支援プログラムの立案に参加できる環境を整える。		

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		花札やカードゲームを多く取り入れている。低学年児童でも参加できるようにルールを分かりやすく可視化している。	色々なアイデアを取り入れ、意見を交換しながら実践していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		検証を行い、次につなげている。	毎日の活動に集団活動を取り入れていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	役割分担表を活用している。支援前に話し合いを設けて注意すべき児童や担当スタッフを決めている。	スタッフ同士の連携を密に取っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	報告や意見発信を促し、習慣となるように声掛けしている。スケジュールの記録を残し、次年度に活かしてい	児童の様子などを細かく共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		毎日の支援を振り返り、記録を作成した上で、検証を行い、改善案を話し合っている	全員が記録できるような体制にしてい
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1	話し合いの中から情報を取り出せるように意識している。	全スタッフに周知を行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10		ガイドラインをスタッフに配布し、4つの基本活動とはなにかを説明し、理解を促している。	常に意識しながら支援に関わるように、スタッフの教育を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		スタッフの独断で決定せず、子どもが話し合い、意見交換をする話し合いの場を必ず設けている。	スタッフのスキルに差があるので、細やかに指導行
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		情報共有を常に行っている。児童発達支援管理者が参加している。会議の前に議題について話し合いを行っている。	今後も続けていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	情報共有を常に行っている。	連携を強化する工夫が必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		LINEを活用して、迅速に対応できるようにしている。緊急時の連絡は児発管に行うなど、連絡先を明確に分けている。下校時間等、変更があれば連絡を取り合っている。保護者様に確認したり、担任の先生に確認している。	各学校によって情報提供に差があるため、確実な情報収集の方法を周知徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	2	該当事例が発生した場合は、全スタッフに情報共有できるような体制を構築する。	数年利用なし。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	5	該当事例が発生した場合は、全スタッフに情報共有できるような体制を構築する。	事例、未だなし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10		情報収集に努めている。	研修等の開催があれば積極的に参加する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	送迎の際にスタッフそれぞれが情報収集を行い、意見交換をできる環境を整えている。	現時点では活動する機会はないが機会を増やせるようにする。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	5	情報収集を行う。	現在、積極的な活動は行っていないが、研修等の案内があれば参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		スタッフ間で情報共有行	連絡帳や送迎時に保護者様に児童の様子などを話して、意見を共有している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		ペアレントトレーニングとは何か、なぜ必要なのかをスタッフに説明をし、理解が深まるようにしている。	情報提供の手段を工夫する。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		わかりやすい表現を心掛けている。	今後も続けていく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		毎日の会話などから、意向を確認するように意識している。	様々な情報収集を意識する。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		放課後等デイサービス計画を示しながら分かりやすく説明している。	今後も継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		保護者様と全スタッフが関われるような環境を整え、情報を得やすい環境を意識している。児発管への報告を緊密に行い、即座に対応できるような体制を意識している。	全スタッフが情報共有を意識して支援を行うようにする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	5	細やかな情報収集を心がけている。情報共有や話題の提供を心掛けている。	保護者会等の開催予定はない。開催は必要ないとご意見を頂いており、慎重な対応が必要だと考えている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		全スタッフに、苦情は事業所にとって大切な情報である事を伝え、迅速に事実を報告することが重要だと日頃から話している。	関係事業所や相談支援員と情報の共有を図り、適切に対応できるようにしている。日頃からスタッフ間で情報を共有し、児発管が中心となり、迅速かつ的確に対応できる体制を整えている。上記の対応を今後も継続していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		インスタグラム掲載用写真や内容をスタッフが感想を言いながら意見交換を行っている。	今後も継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人情報の定義と守秘義務の重要性を常に話している。書類等は鍵付きのキャビネット（表から見えない）に収納している。	日頃から職員に守秘義務について、指導を行う。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		障がい特性の知識や保護者様とのやり取りの内容をスタッフ間で共有し、配慮の方法を話し合っている。	公式LINEや独自の通所システムツールの活用して行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7	アイデアを出し合い、活発な意見交換ができる環境を整えている。	広く参加を呼び掛けるためには、検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		マニュアルを元に訓練を行っている。保管場所を分かりやすく伝えている。	今後も続けていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		業務継続計画を策定し、全スタッフに周知している。大雨、火災、地震、台風を想定した避難訓練を行っている。	全ての子どもが参加できるように、日程を設定し、訓練を実行する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	2	服薬がある児童がいる場合は全スタッフに周知をしている。服薬時は必ずスタッフが横に着き手渡し、服薬を見届け完了の声掛けを行っている。	情報共有を徹底して行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	3	児童の情報共有を図っている。保護者様からの情報をもとに、食物アレルギーに注意している。	医師の指示書に基づく利用者はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		毎月安全計画を更新し、全スタッフに周知を行っている。	必要に応じて内部研修、外部研修を行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		子どもの安全確保を最優先に、不測の事態が起きた時は、すぐに保護者様へ連絡を取れるように連絡体制を整えている。	安全計画に基づく取り組み内容の周知を、ご家族様へ徹底して行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハットが起きた際は速やかに記録する体制を整え、全職員に周知している。必ず、検証を行い、再発防止策を考えている。	ヒヤリハットとは？の共通認識を、全スタッフが持てるように研修等を重ねる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		全スタッフが日頃から虐待について話題にしている。年に2回以上虐待防止委員会を開催している。	今後は委員会の回数を増やし、研修を充実させていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	3	全スタッフに、重要な内容である事を日常的に話し、具体的な内容を伝えている。	身体拘束が必要となる事例は今のところ発生していない。研修等を通し、スタッフの知識を深めていく。	